

熊本公德会 教育講演会

熊本公德会は社会教育の充実・発展、青少年の健全育成などを掲げて公益事業を展開。

期日：平成 28 年 5 月 26 日（木）14：15～16：00 玉名市立玉南中学校

5 月 27 日（金）14：10～16：00 宇城市立豊野小中学校

演題：「音楽で心に潤いを」 講師 藤川いずみ（箏曲家）

主催：一般財団法人 熊本公德会

共催：熊本日日新聞社

time	場面	*Staff	助演： 鈿虚霧洞、角田ちひろ 舞台：上野屋楽器
	搬入	*	10時頃学校着、スタンバイ 14 時
2	校長先生挨拶		
5	熊本公德会		
5	紹介 DVD	*	映像：スクリーン・プロジェクター使用（データ持参）
25	藤川 講演	*演台	「音楽で心に潤いを」 BGM 使用（CD サンクチュアリ）
30	箏の紹介 放送設備 ピンマイク・ ハンド・有線 スタンド高低 放送担当先生	*マイク 演奏毎 に移動	箏の種類：生田流・山田流の違い、17 絃箏 古曲の奏法：「六段の調べ」 熊本に伝わる古典：「尾上の松」（尺八鈿虚霧洞氏紹介） 箏の音楽の歴史の流れ：「春の海」（尺八の紹介） 現代の箏のテクニック：新箏「雨ざんざん」 アジアの箏：中国箏「茉莉花」、伽耶琴「アリラン」 日本を代表する歌：「さくら変奏曲」
5	休憩	*爪	体験者は楽器へ：箏爪を付ける
15	箏の体験 椅子 40 脚 ホワイトボード (紙が貼れる)	*手の形 タッチ を指導	玉南中 6 面（1 面糸切れ）+6 面（体験用）=12 面 *体験者 12 面×3 回 中学校 1・2・3 年 152 名 2 クラス×3 学年 豊野小中 11 面+（体験用 6 面まで貸出可能） *立奏台 8 組あり *体験者 小学校 5・6 年 80 名、中学校 1・2・3 年 112 名
	質問コーナー		*時間の余裕がある場合のみ
	終わりの挨拶		学校・先生 生徒退場
30	片付け	*	搬出

第一部「音楽で心に潤いを」シナリオ

BGM ♪ サンクチュアリ・・・

〇〇学校のみなさん、こんにちは。箏の藤川いずみです。

今日は、日本の伝統楽器を代表する箏を通して、「音楽で心に潤いを」というテーマで「お話」と「演奏」で楽しい時間にして行きたいと思っています。

そして箏の「体験」も待っています。いま流れている音楽は、箏とピアノの曲を録音した私のCDですが、リラックスした気分で聴いて頂いて、皆さんと一緒に楽しい時間にしていきたくと思っています。(時間の配分)最後までどうぞよろしくお願いします。

【箏と外国楽器とのコラボレーション】 *collaboration<協力・協同・合作>

一口に「こと」と言っても、非常に音楽の幅が広く、一人の演奏者が箏のすべてのジャンルを弾きこなす事が出来ないほど、現在はその世界が広がっています。

初めに見て頂きました映像は、私が箏という楽器の魅力を伝えるため、色んな可能性を求めてプロデュースしてきた演奏の様子です。

- ① TRINITY ⇒ スペイン <ヨーロッパの民族音楽・舞踊> ⇒ エネルギー
- ② 日韓伝統オーケストラ ⇒ 韓国 <アジアの民族音楽・伝統楽器> ⇒ 共振共鳴
- ③ メルボルンリサイタル ⇒ メルボルン <南半球の民族音楽・伝統楽器> ⇒ 憧れ

グローバルになればなるほど、伝統の価値感が必要とされてくるのです。

世界の色々な人たちと横につながればつながっていくほど、何が人と自分が違うのか？ その違いこそが、「素晴らしいもの」「あなたにしかないもの」として評価されていく。つまり、「私しかもっていないもの」オリジナリティ（独自性）が尊ばれていきます。

みなさんに尋ねます。「あなたにしかないもの、それは何ですか？」自分の中で考えてみてください。もっとわかりやすくいうなら、人と違うところを探してみてください。それは、あなたの魅力なのです。それは世界の中では大事にされるものです。

コラボレーションでは、箏という楽器とその演奏表現の多様性に敬意が払われます。

『音楽』は「分かり合える、共感できる」という点では、言葉と同じ。しかし、言語ツールとは違う次元で、世界の人々の心と通じ合える。(オリンピック・スポーツもその一つ)

エピソード1. スペイン人の話「アクシデントを乗り越える」+ ギターと箏

エピソード2. オーケストラアジアの体験「一本の指揮棒に」+ 中国・韓国楽器

エピソード3. オーストラリア・アンとの出会い「言葉より先に」+ 箏・尺八

外から見ると自分たちの文化がよくわかります。なぜ日本の文化が素晴らしいか、なぜ伝統を大切にしなければならないのか、いくつか私がこれまで体験したエピソードの中から、オーストラリアでの例を紹介してみたいと思います。

【なぜ、歴史と伝統が大切か？】

○日本はそれを持っているのに、自分自身が自分の財産（宝物）に気が付いていない。

エピソード1. キャンベラ国会・国立博物館（国の成り立ち、歴史の長さの比較）

エピソード2. ジャパンフェスティバル（日本文化への憧れ。多種。型という洗練）

心のよりどころを探す人々がいる。歴史という幾重にも重ねられた年月を経て、人から人へ伝授されてきたものがある。それは外からは眩しく見え、羨ましい。

まるで厚い地層の中を潜り抜けてきた水が美味しく、貴重なものという感覚に似ている。それを飲んで、この水はどれだけ美味しいか、体験してみて洗練された感覚を味わう。

それが日本ブームとなった。

世界は刻々と変化している。「変わるもの」がある中で「変わらないもの」がある。

変わらないもの、すなわち『普遍的なもの』、それが伝統。

○「変わるもの」柔軟性

教育のすばらしさ。

エピソード1. オーストラリアの教育 人が財産。（これから作って行く国の柔軟さ）

・ジャパンデー（日本の遊び、コスプレ、職員室は11時ティータイム）

・イマージョン教育（豪州で2校、ハンティングデール小学校）

○「変わらないもの」普遍的な価値

ここに住んでいるからできること、ここにしかできないもの。風土が作り出すもの。

・世界国際尺八フェスティバル（2008年シドニー）

・伝統音楽（熊本に伝わる古曲の話、空気、水、生活、言語、人）

世界の人々が古典を学び、その風土からできた文化に敬意と憧れを持つ。

「そこにしかないもの。独自に発達したもの」⇒人、国の歴史への敬意

☛皆がもし外国に行くとしたら、一番大切にしなければならないものは何ですか？

相手が大切にしてきたものに対する『敬意』が一番大切。

敬意とは、相手のことをよく知り、それを大事に思う気持ちです。

これができる人は、自分の中にあるものをよく知り、自分を大切にしているから。

箏では、古典で弾く音色と技術が、基礎（ベース）となる。

この基礎がしっかりしていないと、高次元でのコラボレーションが成り立たない。

つまり、自己の確立がなされていないと、他との協調ができない。

自分がいい加減だと、他の人と協力してやろうとしても、いいものがない。

良いものを作ろうとするなら、自分をしっかりと作って行くことが必要です。

【好きな音楽を探す】ではみなさん、自分探しの旅に出てみましょう。

☛自分が立っている所がどこか、自分は何者か、自分の魅力は何か？

一つでもいいから、良い所、好きなところを探してみよう。

それを自分の中にしっかり持っていることが大切です。

それを毎日教えて下さっているのが、皆さんの先生方ですね。

皆さんがそれぞれの「自分」という個（自己）を作るために、人間としての基礎を教えて下さっています。

しかし、意外と難しいのは、悪い所はわかっても、良い所を見つけるのは難しい。

☛もし、好きな自分を探すのが難しいなら、自分の好きな物、好きな音楽を探してみたら・・・好きな音楽を聴くと、心が共鳴します。メロディや歌詞に自分の心が動き、何度も繰り返し聴きますね。その音楽を自分の中に深く刻み、それがあるときは自分を励ましたり、ある時は慰めてくれたり、あるときは一歩前に進む勇気を与えてくれたりします。

☛みなさん、スポーツも好きでしょう。スポーツをやっている人は、音楽が元気を与えてくれる経験をしたことがあるでしょう。ボクシングの登場の音楽はテンションを最高に引き上げてくれるし、フィギヤースケートの選手も寸前までイヤフォンから音楽を聴いて自分の最高の演技ができるように集中しますね。

また落語家が登場するときの寄席ばやしは、気分をリラックスして本番に心を向けるために、影で三味線を弾いています。

それらは、みんな選手や落語家自身の好きな曲です。

好きな曲は脳波にいい影響を及ぼします。そして体の中で、脳から良いホルモンが出てきて、体を思うように動かしてくれる作用があります。好きな音楽が多いということは、自分が色んな状況に置かれたとき、そのたびに助けてくれます。

（余談：私が皆さんの年齢で好きだったのは、ウィーン少年合唱団の「天使の歌声」でした。それから先月ニュースでもあって他界したアメリカンポップス界の天才プリンスも若いころ好きで、ありとあらゆるジャンルの音楽が好きでした。）

☛「好きな音楽を探す」ということは、自分探しの旅でもあります。

その時々によって、好きな音楽は変わっていきます。

そんな中で昔は理解できなかったものも、後になって意味がわかることもあります。「好き嫌い」の次元を超えて、その上の高い階段を上ったときに、もっと高度で幅のある理解ができるようになります。それは、昔に比べて、あなたがさらに一段上に成長をしたということの意味します。

そして、ある時ふと昔好きだった音楽を耳にしたとき、その時代何かに向かって頑張っていた自分、悲しんでいた自分、だけど今は乗り越えた自分、音楽がそのときの自分を蘇えらせてくれます。「失ったものは何もないよ。」と、音楽があなたに語りかけてくれます。

<BGM 終了>

【日本音楽の特徴】

「鎮魂」と「祈り」

もともと日本の楽器は、「鎮魂」のために弾かれていました。

鎮魂とは、『魂を鎮める』聴いていると乱れた心が穏やかに鎮まって来ることです。

いろんなところに飛び出していた心のギザギザが、真っ直ぐと一本の芯のように体の中心に収まって行くように、または心の中の荒れ狂う波が静まり穏やかに水が流れていくように、音色の作用で促して行くものです。例えば、お経を聞くような感じですが、だんだん眠くなってくることがあるかも（笑）…でも、安心して下さい、それでいいんです。

また、それよりももっと古い時代には、自然の中に生きる人々が、厳しい自然を神と畏れ、「祈り」として音を捧げていました。太鼓の振動や、箏の音を『祈りのバイブレーション（波動）』として、遥かなる天に届くように音を鳴らしていました。

例えば、長い間雨が降らなければ、干ばつで農作物が育たないので、「雨よ降れ〜！」と雨ごいなどのお祈りをして、神様を起こすためにドンドンとやったり、美しい音色をポロンと奉納していい気持ちにさせたりして、お願いごとを叶えて貰おうとしていたのです。

第二部 箏の紹介

それでは、これから箏について紹介していきましょう。

【箏の構造】

これを見てください。（ティッシュ箱と洗濯バサミのミニチュア箏）⇒説明

【箏の種類】

- ① 箏・爪（生田流、山田流）
- ② 17 絃箏

【箏の奏法】

古典の奏法：「六段の調べ」⇒右手・左手の手法、序破急

【箏の演奏】

熊本に伝わる古典：「尾上の松」（抜粋）⇒尺八助演者・曲の紹介

箏の音楽の歴史の流れ：「春の海」（宮城道雄作曲）⇒曲の紹介

現代の箏のテクニック：新箏「雨ざんざん」（三木稔作曲）⇒現代箏テクニックの紹介

アジアの箏：中国箏「茉莉花」、伽耶琴「アリラン」⇒箏の相異説明

体験のための模擬演奏：「さくら変奏曲」⇒箏助演 1 名

第三部 箏の体験

【箏の体験】

箏体験 ①一回目、二回目、三回目

【質問コーナー】☛今日の講演会を聴いて、何か質問がある人は手を挙げてください。本日の講演会はこれで終わりになります。皆さん、最後までありがとうございました。